

なみよせみやけだいせき 4. 波寄三宅田遺跡

所在地: 福井市波寄町

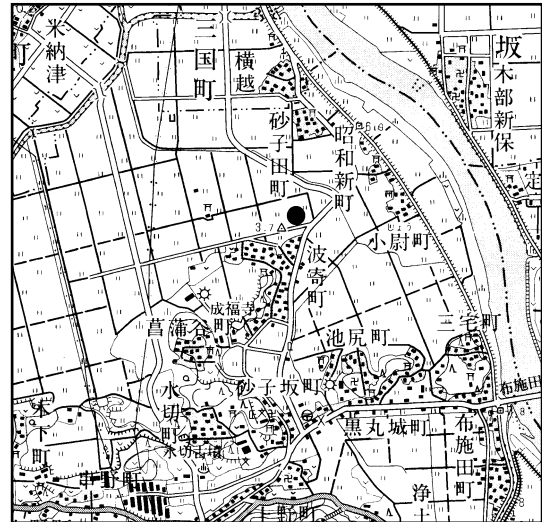
調査原因: 一般国道 416 号道路改良工事

調査期間: 平成 23 年 4 月 18 日～8 月 30 日

調査主体: 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積: 4,800 m²

時代: 縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代前期、奈良・平安時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 遺跡は、福井市街中心から北西へ約 10 km 離れた地点に位置し、九頭竜川左岸の水田地帯に広がっています。平成 22 年度に 1～5 区(計 5,870 m²)の調査を行い、今年度は引き続き 6～8 区(4,800 m²)を調査しました。

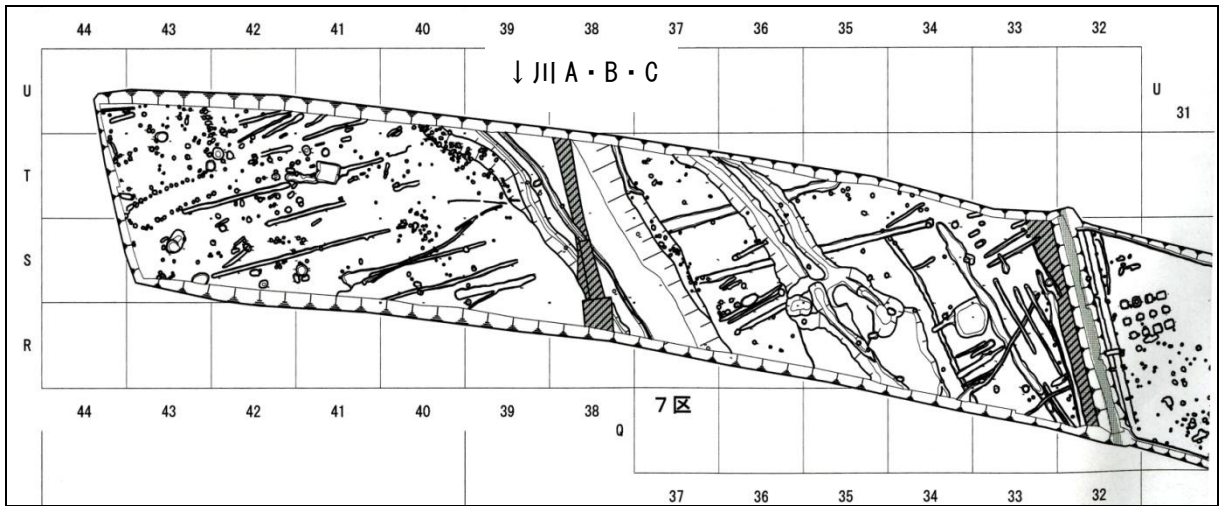
6 区遺構 面積は 700 m²。5 区の東側に接した調査区で近世以降の攪乱や畑の溝ばかりでした。土器もほとんど見つかりませんでした。

7 区遺構 面積 2,500 m²。5 区の西側に接した調査で、弥生時代後期の土坑墓 2 基と土坑 3 基と、奈良・平安時代の井戸が 3 基見つかりました。井戸 SE 2 の底には、須恵器の壺と、長さ 1 m の棒状木製品がありました。井戸 SE 3 の底には、完全な形の須恵器の盤、杯、蓋がありました。盤の底には墨書で「五月女(さおとめ)」の文字が書いてありました。須恵器は井戸を埋める際、神様への供物として捧げられたのかもしれませんが。7 区の中央では川 A～C が見つかり、川 A には 5 世紀末の須恵器の蓋、川 B と川 C には弥生時代後期～古墳時代前期の土器が捨てられていました。

8 区遺構 面積 1,600 m²。奈良・平安時代の土器を含む I・II 層の暗灰色土と、III 層黒色土を掘り上げると、調査区全体を縦断するように、北西から南東に流れる幅 10 m 以上、深さ 1.5 m の大きな川が見つかりました。川の中層には植物の腐食物でなる V-①層が 30 cm の厚さで堆積し、川の下層には V-②層が厚さ 40 cm で堆積していました。V 層には弥生時代中期～後期末、古墳時代前期の土器と木製品(鋤、棒材、板材)が多く含まれ、直径約 1 m、長さ約 7 m の巨木を川の流れと直交させて据えた「木道」も見つかりました。V 層の下層である VI 層は、川の両岸が形成される以前の古い層であり、縄文時代には一帯が湿地であったことが明らかになり、縄文時代後期～晩期の土器が非常に多く見つかりました。

まとめ 縄文時代後期、弥生時代中期～古墳時代前期、奈良・平安時代の 3 時期において人々が果敢に低地に進出し、ムラを営んでいたことがわかりました。7 区の川 A～C と 8 区の川は、各時期において複数の集落の境界となっていたかもしれません。

(鈴木篤英)



波寄三宅田遺跡7区全体図



7区遺構全景（東から）



8区川全景（V層除去後）（北西から）



7区 SE 2 出土墨書土器「五月女」

